

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 企業探究を通して自己の生き方を考えるプロジェクト

1. 本実践の背景とねらい

学習指導要領に、「生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようキャリア教育の充実を図ること」と「情報活用能力について、言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ学習の基盤となる資質・能力の一つと位置付け、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて育成すること」とある。本校でも、学校教育目標の達成に向けて設定した資質・能力（「自分も相手も大切にする力」「論理的に考える力」「解決に向けて行動する力」「テクノロジーを使いこなす力」）の獲得を目指して、キャリア教育の充実と情報活用能力の育成を一体的に図っていくことにした。

具体的には、コロナ禍で実施困難であった従来型の職場体験学習を探究的な学習に変更し、6企業からのMission「企業の製品価値を向上させよ（メタバース）」「米子市の魅力を伝え、地域を活性化させる番組を制作せよ（放送）」「みんなに愛される米子のお土産を開発せよ（販売）」「SDGsを意識した住宅を創造せよ（建築）」「中学生ならではの取組で地域を活性化せよ（地域）」「年長組が楽しくルールを学べるゲームを創造せよ（保育）」の解決に向けて、1人1台Chromebookを探究の各プロセスで効果的に活用するPBL型の実践を行った。今回は、下記の3点を主なねらいとして、民間企業と連携して取り組んだ実践について報告する。

- ①個別最適な学び・協働的な学びを意識したPBL型の実践であること
- ②自己の学びと将来とのつながりを考えること（キャリア教育）
- ③本校設定の資質・能力を育成・向上させること（特に情報活用能力）

2. 実践内容

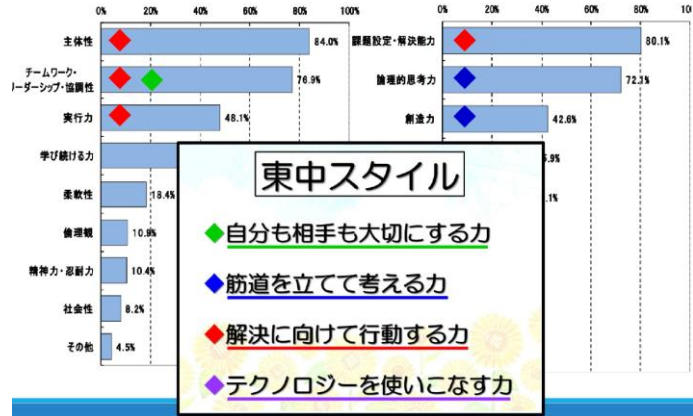
2-1. 課題の設定

単元の導入時に、動画「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～（経団連）」の視聴を通して、これから生きていく社会は、目まぐるしい速さでデジタル技術やAIが進歩し、生活や働き方など多方面にわたりイノベーションが進むSociety5.0であると同時に、SDGsなどの現代的諸課題の解決に協働していく共生社会であることを意識させた。その上で、「採用の観点から、大卒者に特に期待する資質・能力・知識のアンケート結果2022（経団連）」を提示し、本校設定の資質・能力と関連させながら、本単元で身に付けたい力を生徒に自己設定させた。さらに、生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じたMissionを上記で示した6つの中から選択させ、グループを設定した。

2-2. 情報の収集

民間企業からのメタバース体験や企業説明を通して、Missionのイメージを具体化し、Chromebookを使用して情報検索・収集を行った。具体的には、アンケートの実施やGoogleスライドの共同編集機能を活用して、役割分担・記録・情報共有をした。また、課題解決のアイデアをより良くするために、生徒自ら学校外の専門家を見つけて連絡し、アイデアに指導助言がもらえるようにオンラインミーティングを計画した。

価値を生むのに必要な力 ≡ 東中スタイル



連携6企業の紹介



リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 企業探究を通して自己の生き方を考えるプロジェクト

2-3.整理・分析

収集したアンケートを分析して、各グループのアイデアを練り直した。また、自分たちのプロジェクトが論理的・現実的かについて分析し、提案を練り上げた。

2-4.まとめ・表現

提案用の資料をGoogleスライドで共同編集し、自分たちのプロジェクトを他学年にプレゼンすることで改善点を得た。また、生徒自らが渉外した機関（官公庁、専門学校、民間企業等）とMeetを活用したオンラインミーティングを行い、Mission解決のアイデアをブラッシュアップした。学校外の大人とのコミュニケーションを通して、学校内の学びを学校外で活用・発揮することで、より確かなスキル形成につながるとともに、学校内では得られない体験をすることができた。最終的に、そのうち民間企業1社に中間成果報告を行い、各グループにフィードバックをもらった。

2-5.振り返り・改善

毎時間の取組や振り返りを学習支援ソフトに蓄積し、デジタルポートフォリオとして整理させた。探究の過程を俯瞰させて、自己の資質・能力の向上について振り返らせた。中間成果報告で指摘されたことを改善し、10月の最終報告会に向けて探究を進めていった。



3. 成果

3-1.自己の学びと将来とのつながり（キャリア教育）

校内の学びを学校外で発揮（大人にプレゼン等）することで、将来に必要なスキルを実感したり自分の将来像を考えたりする記述が多く見られた。以下、生徒記述〔「働くこと」についての振り返り〕

- ・自分の興味のあるMissionに取り組み、将来に必要なスキルや能力が分かった。普段の授業では知ることのできないリアルな社会を感じることができた。改善点を修正して後半も頑張りたい。
- ・課題解決のためには、たくさん声を聞くことが大切だと思った。自分たちでは思いつかなくとも必要なのだと考えた。今後の生活でもコミュニケーション能力を高められるように意識して取り組みたい。

3-2.資質・能力の育成・向上（特に、情報活用能力）

本校設定の資質・能力について、7月の自己評価から平均2.4ポイント（7段階評価）の向上が見られた（7月109名）。特に「テクノロジーを使いこなす力」については、クラウドを活用した情報共有や共同編集、学校外ともMeetでつながる技能や経験など、情報活用能力を活用・発揮させる場面を多く設定できた。

4. 今後に向けて

本プロジェクト（メタバース商品の価値向上）を、文化祭で他学年や地域の方が体験できるブースを企画・運営する。次年度以降も、実社会とつながり学校内の学びを学校外で発揮・実践・活動できる場をコーディネートしたい（紙面上ではなく、実際の活動につなげる）。また、同様の実践を市内の学校と共同実践し、探究的な学習をより充実させ、生徒の学びの力を高めていきたい。

東山スタイル（資質・能力）の変容

